

日本産業衛生学会九州地方会ニュース

# 産衛九州

発行所 日本産業衛生学会九州地方会  
〒890  
鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1  
鹿児島大学医学部衛生学講座  
TEL(099)275-5291  
FAX(099)265-8434  
発行責任者：地方会長 松下敏夫

(題字 倉恒匡徳筆)

## 平成9年度地方会印象記

# 平成9年度日本産業衛生学会 九州地方会学会について

九州健康総合センター 酒井 淳

福岡産業保健推進センター所長の馬場快彦先生が学会長を務められて、7月11日、12日の2日間にわたり、ひさやまヘルスC&Cセンターで開催された。

九州大学健康科学センターの藤野武彦助教授による「新しい健康開発の拠点を目指して」—ひさやまヘルスC&Cセンターの活動—と題しての特別講演が行われた。藤野先生は、長年にわたり地域住民のPositive Healthに取り組み、多くの成果をあげられており、ひさやまヘルスC&Cセンターの開設から運営にわたっての指導もされている。現在の健康管理が negative の手法であったことへの反省から新たな健康概念としてLIFEモデルを提唱し、健康状態を示す4つのレベルを説明し、地域住民や職域で働く人達がより高いレベルへの道すじを歩んでもらうよう、ヘルシーフォレストひさやま計画を実施していることを具体的事例を示して解説された。健康

管理に従事している会員にとって示唆に富む講演であった。

一般発表では、九州地方会の特徴である職場に密着した調査研究が報告され、活発な討論も行われ盛会であった。防毒マスクの破過時間のことなど現場での具体的な教育指導の必要性を痛感した。

今回の地方会学会は、馬場先生のお考えで2日間にわたって開催され、レイクサイドホテル久山でゆっくり温泉につかり、リラックスする事も出来、懇親会後のグループ自由討議も時間をかけて活発な意見交換が行われ爽やかな多い学会であった。梅雨による大雨で交通機関が乱れ、松下地方会長をはじめ、遠方から出席された方は大変であったが、会員の皆様のご協力とC&Cセンターの福光ミチ子さん等お世話をしていただいた方々のご努力で無事終了したことを感謝している。

## 産業保健推進センター御紹介

# 熊本産業保健推進センターの 活動状況について

労働福祉事業団  
熊本産業保健推進センター  
所長 白男川 史 朗 (熊本県医師会長)

当センターは、1994年7月に福岡に次いで九州で2番目に開設され、事業主はもとより産業医、衛生管理者、産業保健婦といった産業保健関係者に種々のサービスを無料で提供し、その活動を支援することを目的としています。

熊本大学名誉教授三浦 創先生、衛生学教授上田 厚先生をはじめ12人の各分野の専門家を専門相談員に委嘱し、窓口相談や実地に赴いての相談に応じてもらっており、昨年度の相談件数は95件でした。真に専門相談員の活用という点からすると、関係者の信頼を得、もっと多くの、もっと質的に深みのある相談を寄せてもらえるセンターづくりの必要性を痛感しています。

当然ながら、一朝一夕には成し得ず、まさに日々のセンター業務

の評価の上に立つものであるとして、現在、センター活動の中心に専門相談員を活用した研修会をおき、健康づくり、健診結果の読み方、作業環境測定結果の読み方等現場で役立つ多彩なテーマで開催しております。同時に、産業保健に関する図書・ビデオ、作業環境測定機器等の無料貸し出しを行っており、多くの利用があり、徐々に当センターの存在が認知されつつあるのではと自負しています。

当センターとしては、先の法改正に伴う産業医の専門性の確保について産業医及び事業主の関心が高まる中で、実効ある産業医活動のために今後どのような支援ができるかが大きな課題となっています。

## これからの諸行事予定

### 平成10年度九州地方会学会開催のお知らせ (第1報)

日時 平成10年6月12日(金)～6月13日(土)

場所 北九州市 産業医科大学ラムツィーニホール

#### 日本産業衛生学会 第43回労働衛生史研究会

世話人：馬場快彦、酒井 淳、松下敏夫、野村 茂

日 時：平成10年1月17日(土) 13:00～17:00

場 所：九州ビル8階会議室・まつの間

福岡市博多区博多駅南1丁目8-31(九州開発株式会社)

TEL 092-461-1113

内 容：《主題》九州地方における労働衛生活動の展開

##### 1. 鉄鋼業における労働衛生

1) 黒田・川畑博士の業績を中心に 倉恒 匡徳

2) 八幡製鉄病院の研究業績から

元田 紀雄

酒井 淳

馬場 快彦

橋本 剛明

永利 博美

野村 茂

2. 鉱山業における労働衛生活動

3. 造船業における労働衛生活動

4. 化学工業における労働衛生

5. 忘れ得ぬ先人たちの業績

6. その他(一般演題)

一般演題締切日：平成9年11月30日まで

連絡先：鹿児島大学医学部衛生学講座 松下 敏夫

TEL 099-275-5291 FAX 099-265-8434

## 本部理事会及び九州地方会総会関連事項

### 日本産業衛生学会本部理事会報告

産業医科大学環境疫学研究室  
大久保 利 晃

今期の理事会では、2～3期前からの懸案事項に精力的に取り組んでおり、来春の総会までに成案ができる見通しなので、この機会に現時点での検討状況をご報告し、会員諸氏の理解を深めたい。

まず、役員選挙については、今年の総会で承認された、理事長、副理事長、監事を会員による直接選挙から、評議員による間接選挙又は指名に変更することを前提として、選挙制度の細則が検討されている。現行制度では誰に投票したらよいか分からないという批判が強かったため、原則的に本人の了解を前提とする推薦制とし、候補者の抱負をあらかじめ明らかにする方向で検討がなされている。

理事については、定員を25名に削減することは合意ができています。法人格を有する日本医学会の分科会で、理事定数が20名を越えるところは稀で、審議の効率からも最大この程度までが望ましい。定数を削減すると、現行どおり各地方会2名を基礎配分すると、会員1人当たり理事数に大きな地方会差ができるので、地方会別定員制を残すにしても、基礎配分は1名が限度である。残りを現行のように会員数で割り振るか、全国選出にするかが現在の論点となっている。職能別の代表制を加味すると全国選出が優れ、地方会に重点を置くとは比例配分ということになる。

もう一つの問題は財政見通しと事務局の強化である。事務局は今年から2人制となり、改善された。しかし、雑誌の発行経費が年々増加し、ひところ2,000万円以上あった備蓄が急速に底をつきつつある。6社ほどから雑誌の発行経費の見積もりを出させて検討したが、現在の印刷所は妥当であることが確認され、今年から始まった文部省の援助を考慮に入れても2～3年以内に赤字になる見込みは確実で、その他の収入増をはかっても平成10年度から会費値上げが

避けられない情勢となってきた。

以上が現在の理事会の検討状況であるが、来年には相当大きな議論が避けられそうもないので、九州地方会会員諸氏におかれても、それまでに以上の点についてお考えおき願いたい。もし必要な資料等があれば私宛ご請求願いたい。

### 平成9年度九州地方会総会報告

#### I 平成8年度事業報告並びに平成9年度事業計画

##### 平成8年度事業報告

実施年月日	実施事項及び概要
1) 平成8年4月20日	第1回理事会(議長:松下敏夫)旅館あけぼの(佐賀市)にて開催(出席14名、委任状1名)、総会議事に同じ。
2) 同 4月21日	評議員会(議長:友国勝麿)アバンセ4階第2研修室にて開催(出席36名、委任状10名)、総会議事に同じ。
3) 同 4月21日	総会(議長:西住昌裕)アバンセホールにて開催(出席58名、委任状264名)。議事一、平成7年度事業・決算報告及び監査報告について 二、平成8年度事業計画・予算案について 三、監事の選任について 四、平成9年度地方会学会開催について
4) 同 4月21日	学会(学会長:友国勝麿)アバンセホール(佐賀市)にて開催(参加者数172名)。

- 特別講演「職業性皮膚障害」幸田 弘  
(佐賀医科大学内科)。一般演題24題。
- 5) 同 8月5日 地方会史編集打ち合わせ会議(松下敏夫、酒井 淳、二塚 信、馬場快彦)福岡産業保健推進センター会議室にて開催。
- 6) 同 11月16日 第2回理事会(議長:松下敏夫)福岡産業保健推進センター会議室にて開催(出席11名、委任状3名)。  
議事一、平成8年度事業・決算の中間報告(案)について  
二、平成9年度地方会学会の開催について  
三、地方会史の編集方針等について  
四、地方会各理事分掌事項の進行状況について  
五、その他
- 7) 同 11月29日 第11回健康管理研究会 九州エネルギー館(福岡市)にて開催(代表者:高田和美、参加者数129名)。
- 8) 同 11月30日 平成8年度産業看護研究会 福岡県看護等研究研修センター(福岡市)にて開催(代表世話人:福光ミチ子、参加者数

- 140名)。
- 9) 同 12月14日 第17回生物学的モニタリング研究会 産医大ラマツィーニ・ホール(北九州市)にて開催(世話人:川本俊弘、参加者数70名)。
- 10)平成9年3月1・2日 労働者の生涯健康の支援を考える研究会 レイクサイドホテル(福岡県粕屋郡)にて開催(代表世話人:福光ミチ子、参加者数39名)。
- 11) 同 3月31日 地方会ニュース「産衛九州」創刊号発行。

平成9年度事業計画

1. 地方会学会の開催 福岡県粕屋郡久山町にて開催(学会長:馬場快彦)
2. 研究会の開催 第12回健康管理研究会(平成9年11月28日)  
平成9年度産業看護研究会(平成9年11月29日)  
労働者の生涯健康の支援を考える研究会(平成9年7月12日)  
労働衛生史研究会(平成10年1月17日)
3. 地方会ニュース「産衛九州」の発行
4. 地方会史発行準備、その他

II 平成8年度決算報告並びに平成9年度予算

平成8年度決算

(単位:円)

科 目	予 算	実 績	増 減	備 考
<b>収入の部</b>				
平成8年度交付金	667,200	703,200	36,000	@1200円×586名
平成7年度繰越金	299,027	299,027	0	
雑 収 入	0	230	230	銀行利息
収入合計	966,227	1,002,457	36,230	
<b>支出の部</b>				
地方会学会開催費	150,000	150,000	0	
研究会補助金	200,000	200,000	0	
九州における産衛活動調査費	100,000	100,000	0	積立
次期役員選挙事務費積立	50,000	50,000	0	
連絡通信費	90,000	28,764	△61,236	
消耗品費	10,000	5,752	△4,248	
会議費	50,000	5,000	△45,000	
予 備 費	100,000	0	△100,000	地方会ニュース印刷費 94,500円を未払金として 次年度に繰越した。※
支出合計	750,000	539,516	△210,484	

○決算残余金462,941円 → 次年度繰越

※平成9年6月24日支払い済み

◎(九州における産衛活動調査費積立 1,354,714円)

◎(次期役員選挙事務費積立 50,012円)

平成9年度予算

(単位:円)

科 目	予 算	8年度実績	増 減	備 考
<b>収入の部</b>				
平成9年度交付金	703,200	703,200	0	@1200円×586名
平成8年度繰越金	462,941	299,027	163,914	平成8年度未払金を含む
雑 収 入	230	230	0	銀行利息
収入合計	1,166,371	1,002,457	163,914	
<b>支出の部</b>				
地方会学会開催費	150,000	150,000	0	
研究会補助金	200,000	200,000	0	
九州における産衛活動調査費	100,000	100,000	0	積立
次期役員選挙事務費積立	50,000	50,000	0	
連絡通信費	200,000	28,764	171,236	
消耗品費	15,000	5,752	9,248	
会議費	100,000	5,000	95,000	
地方会ニュース発行費	194,500	0	194,500	平成8年度未払金の支払いを含む(地方会ニュース印刷費:94,500円)※
予 備 費	156,871	0	156,871	
支出合計	1,166,371	539,516	626,855	

※平成9年6月24日支払い済み

# 平成9年度日本産業衛生学会九州地方会総会議事要旨

日 時：平成9年7月11日(金)16:00～17:00  
場 所：ひさやまヘルスC&Cセンター えびねホール  
司会者：大和 浩（産業医科大学労働衛生工学）

1. 地方会長挨拶（松下敏夫会長）
2. 学会長挨拶（馬場快彦学会長）
3. 議長選出  
議長に馬場快彦（福岡産業保健推進センター）が推薦され承認された。
4. 総会の成立の確認  
総会出席者数38名、有効委任状298名、総会総出席者数336名。現会員数657名、定足数132名（規則第22条）であることから、総会成立を確認。
5. 議事録署名人の選任  
青木一雄（大分医科大学公衆・衛生医学II講座）並びに市場

正良（佐賀医科大学地域保健科学）が選任された。

6. 議題
  - 1) 平成8年度事業及び決算報告（案）について（松下地方会長）  
監査報告（監事欠席のため議長が代理報告）  
原案通り承認。
  - 2) 平成9年度事業計画及び予算案について（松下地方会長）  
原案通り承認。
  - 3) 平成10年度地方会学会開催について（松下地方会長）  
評議員会の推薦通り、平成10年度地方会学会長として大久保利見教授（産業医科大学環境疫学）が承認された。
7. 報告事項
  - 1) 日本産業衛生学会本部理事会の内容について（大久保理事）
  - 2) 平成9年度地方会研究会の開催案内について（馬場議長）
8. 次期学会長挨拶（大久保利見教授）

## 学会研究会報告

### 国際職業環境アレルギー・

### 免疫疾患シンポジウム'97に出席して

鹿児島大学医学部衛生学講座  
胥 宝 会

去る1997年9月17日から19日まで、鹿児島大学松下敏夫教授および中国医科大学姚興家教授を会長とする「国際職業環境アレルギー・免疫疾患シンポジウム'97」が、中国瀋陽市の遼寧友誼賓館にて開催された。今回の会議は、中国医科大学と鹿児島大学の関係者が提唱し、ICOH Scientific Working Group (SWG) on Allergy & Immunotoxicology, 日本産業衛生学会、日本職業アレルギー学会、中華医学会呼吸病学会、中華予防医学会遼寧分会等の学術団体の協賛により、アジアで開催した初めての職業環境アレルギーに関する国際シンポジウムであった。

このシンポジウムには、内外より100名の研究者が参加し、そのうち中国以外は日本・イタリアなど4カ国から28名の研究者が出席した。学会期間中、特別講演、一般口演、ポスター発表、誌上发表を含む117編の研究論文が発表された。初日の午前中には、名古屋大学の竹内康浩教授・中国医科大学の候頭明教授より、各々“Occupational skin disorders in Japan from a viewpoint of allergy and immunotoxicology”と、“Current status of the global initiative for asthma program in China”のテーマで特別講演があり、参加者に大きな反響があった。その後は、一般発表が行なわれたが、その内容は、免疫学、分子生物学、疫学等の新しい手法を駆使し、アレルギー・免疫疾患に関する基礎医学的研究から、臨床医学的研究、予防医学的研究までを網羅する広汎な分野に及んでいた。また、特筆すべきことは、今回のシンポジウムでは、若い研究者の活躍が非常にめざましいことであった。発表時間以外では、お互いの知見や率直な意見を交換する熱心な若い人たちの姿が見られた。

なお、ICOHのAllergy & ImmunotoxicologyのSWGでは、次の関連の国際会議を、次年度乃至1999年の初め頃に開催する予定である。

## 専門医制度現状報告

### 1. 登録者数等(平成9年9月15日現在)

#### 1) 指導医 344

	申請	有資格	登録	異動	現在登録数
平成4年度 第1回	212	199	199	—6	193
第2回	65	59	58	—3	55
平成5年度	40	37	37	0	37
平成6年度	24	21	21	0	21
平成7年度	14	7	7	0	7
平成8年度	29	19	19	0	19
平成9年度	21	18	12	—	12
合計	405	360	353	—9	344

#### 2) 専門医 65

	申請	有資格	登録	異動	現在登録数
平成5年度	15	14	14	0	14
平成6年度	10	10	10	0	10
平成7年度	21	20	20	0	20
平成8年度	12	10	10	0	10
平成9年度	12	11	11	0	11
合計	70	65	65	0	65

#### 3) 研修登録医 243

### 2. 平成10年度専門医試験日程

受験申請書類配布開始……………4月1日より  
 資格審査受験申込受付期間……………6月1日～6月30日  
 委員会の承認……………7月上旬～中旬  
 受験資格審査結果と試験の実施要領の通知……………7月末日まで  
 資格認定試験日……………8月29日・30日  
 合格発表……………9月10日

但し、認定証の交付は、平成10年10月に開催予定の、第8回産業医・産業看護全国協議会(大阪)にて行う。

## 3. 指導医資格最新スケジュール

登録年月日	登録番号	更新申請締切日	審査部会開催	委員会開催
平成5年6月末日まで	1~245	平成9年12月末日	平成10年1月上旬	平成10年1月中旬
平成5年12月末日まで	246~282	平成10年6月末日	—	—
平成6年6月末日まで	283~292	平成10年12月末日	—	—
平成6年12月末日まで	293~313	平成11年6月末日	—	—

## 4. 九州地方会の産業衛生指導医(登録番号順)

(紙面の都合で九州地方会の指導医の先生方の登録番号、氏名、  
県名のみ掲載させて頂きました)

登録番号	氏名	県名
1	東 敏昭	福岡
2	馬場 快彦	福岡
13	木屋 俊夫	熊本
50	松山 恒雄	福岡
62	酒井 淳	福岡
63	垂水 公男	福岡
64	川本 俊弘	福岡
79	三浦 創	熊本
80	石西 伸	福岡
89	加地 浩	福岡
100	大久保 利晃	福岡
122	本多 三代彦	長崎
124	馬場 俊夫	宮崎
126	的場 恒孝	福岡
138	熊井 三治	福岡
140	高田 和美	福岡
143	永利 博美	福岡
148	吉村 健清	福岡
172	竹本 泰一郎	長崎
175	井上 尚英	福岡
176	青野 裕士	大分
180	林田 一男	宮崎
181	松下 敏夫	鹿児島
200	畝 博	福岡
202	江崎 廣次	福岡
206	小山 和作	熊本
231	小泉 明	福岡
255	華表 宏有	福岡
263	三角 順一	大分
279	上田 厚	熊本
296	柳 楽翼	大分
301	左座 寛	福岡
310	田代 寛美	福岡
323	高橋 謙	福岡
333	二塚 信	熊本
338	渡邊 博且	福岡

## 5. 専門医紹介(登録ID No順)

平成5年に発足致しました日本産業衛生学会専門医制度も本年で  
5年を迎え、5回生11名が誕生し、通算で65名となっております。  
九州地方会からも14名の方が合格し、様々な分野で活躍しておられ

ます。

今回、ここに会員の皆様に九州地方会の合格者を御紹介する為に  
各自に自己紹介文と近況報告文をe-mailでお寄せ頂きました。

## 専門医の自己紹介と現況

産業医科大学・産業医実務研修センター

藤代 一也(専門医登録ID No. 2)

第1回の専門医試験で日本産業衛生学会専門医・登録番号2番と  
なりました藤代です。所属は産業医科大学産業医実務研修センター  
で、卒業生や医師会認定産業医の先生方等の生涯修練のお手伝いを  
しています。同じ大学の中に専門医の事務局がありながら登録番号  
1番を取れなかったというエピソードが、私という人間の自己紹介  
に最も適した事と思います。控えめな性格ですので、九州地方会の  
諸先輩のご記憶に残っていないと危惧しておりましたが、このよう  
な自己紹介の機会を与えていただき感謝しております。現在は、大  
学では主に講義・実習を担当し、調査研究も少しずつ進めています  
が、産業医としての活動では、産業医科大学の産業医の一員であり  
毎月の職場巡視や安全衛生委員会へ毎月出席している他、中小企業  
数社の嘱託産業医もしています。九州地方会ではほぼ毎年発表もさ  
せていただいておりますので、何かありましたらお声をおかけ下さ  
い。最後になりましたが、実務研修センターの実習でお世話になっ  
ている北九州地区の各企業及び外来講師としてお世話になっていま  
す諸先生にこの場をかりて御礼申し上げます。今後ともよろしくお  
願い申し上げます。

新日本製鐵㈱八幡製鉄所 産業医

服部 泰(専門医登録ID No. 3)

私は昭和61年に産業医大を卒業し、2年間の臨床研修を経て、現  
在の製鉄所で専属産業医として活動しています。約5,000名の従業  
員に対し、産業医は私を含め2名います。診療部門として関連病院  
はあるのですが、産業医は労働・購買部という、より会社に近い組  
織の中に位置づけられており、臨床医としての社員の診療は行って  
おりません。製鉄の現場にいる以上、仕事の中心となるのは職業病  
の予防であり、さらに最近では成人病対策をはじめとする従業員の健  
康管理が重要になっております。

もちろん大企業ですから、労働衛生管理体制あるいは従業員の健  
康管理システムについては、入社当時からそれなりに充実していた  
わけですが、それでも10年近くいすると、もっとより良いものに変  
えてみたいとか、今までにない新しいしくみを導入してみたいとか  
思うことが多くなってまいりました。具体的に最近行った仕事とし  
ては、人事部門との従業員の健康情報のやりとりに関するルールづ  
くり、定期健康診断項目の見直し、腰痛健康診断の導入、血清ペ  
シノゲン測定を用いた胃癌検診の導入等があります。ルーチンの仕  
事に加え、最近はこちらの総括管理的な仕事にも力を入れており、  
非常にやりがいを感じているところであります。

旭化成健康保険組合診療所健診センター所長  
今里 元輝(専門医登録ID No. 9)

旭化成健康保険組合診療所健診センターの所長をしております今里です。現況としましては、センターの定員は医師3名、診療放射線技師3名、臨床検査技師5名、センター看護婦11名、工場派遣看護婦4名、事務員3名の計29名と非常勤(週2回午前中)の医師1名、薬剤師1名です。健診人数は、旭化成7,000人、関連企業3,000人、採用入社350人、主婦1,500人、OB250人、政府管掌健保3,600人、市民400人、市役所200人、の計16,300人です。センターでの臨床は外来数1,600、胃内視鏡検査数300、大腸内視鏡検査数200です。産業医としては、44事業所、8,200人を上記4人で受け持っています。産業医自ら健診をし、コンピュータ判定使用せず過去5年の健診データと照らし合わせて自ら健診データを判定し、事後措置の指示を出します。また自ら読影して、自ら精密検査にかけた人の胃と大腸の内視鏡検査もします。以前は、事後措置の指導や治療までも自らやっていたのですが、上記の業務を見てもらうとおわかりのように、リストラ後は健診をこなすのが精一杯となり、保健栄養運動指導や健康教育は、関連施設の旭化成健康保険組合保健サービスセンター(保健婦7名、栄養士4名)と旭化成健康増進センター(運動指導担当者3名、運動実践担当者2名)に依頼し、治療は市内の開業医に依頼しています。他に産業医としては、月に2回の工場巡視と安全衛生委員会に出席します。

九州大学健康科学センター  
馬場園 明(専門医登録ID No.16)

私は昭和59年に九州大学を卒業し、沖縄の県立中部病院で内科研修を終え、岡山大学の衛生学教室で広く社会医学を勉強しました。社会医学の分野で最も関心を持っておりましたのは医療政策でしたが、青山教授の強い勧めがあり、産業衛生も勉強することになり、現場も持たされました。「医学部には附属病院はあるが、附属工場はないのだから現場に行かなければならない」というのがその理由でした。病院で救急室に立った時、何もできなかったように、工場に初めて入った時、「何もわからない自分」を認識したのが産業医活動の原点であったように思います。

私は、専門医試験を受ける直前、九州大学健康科学センターに移りました。健康科学センターは、健康科学の研究・教育および学生・教職員の健康支援をするところです。健康科学センターで対応している健康問題も一般企業と大きな違いはなく、生活習慣病の予防・管理やメンタルヘルスの対応が中心です。そのために、「異常、疾病を発見、治療する」だけではなく、「本人が生活の質を向上させるために、健康問題をコントロールできるよう支援する」ことを目指しています。しかし、このような活動はまだ確立しておらず、試行錯誤でやっているというのが実状です。会員の皆様とも情報を交換させていただきながら、より優れたシステムを作っていくと考えております。

西部ガス(株) 産業医  
山浦 隆宏(専門医登録ID No.21)

産業医大を卒業し、麻酔科での研修を終え、1年弱の労働衛生機関勤務を経て、昭和62年より現職に就いております。

専属産業医として約3,500名の働く人々に関わらせてもらっていますが、“管理”から“支援”へと産業保健の取り組みテーマが変わるにつれ、集団としての評価のみならず、個人にどのようにして光を当てていくかが重要になって来ていると考えております。そこで、診療や検査はすべて外注化し、集団教育的な側面の強い健康教室は控えて、産業医・産業看護職ともに個人々々への関わり合いに注力する、すなわち、産業医は個人の現在に必要な方向性を判断し、

産業看護職はその方向性に基づいた具体的な生活目標をその個人と合議していく、というトライアルをいたしております。

また、本地方会の健康管理研究会も兼ねた産業保健九州会議の事務局を務めさせていただいておりますが、ここでは種々のテーマによる分科会活動を展開してもらっています。職種を越えて同じ関心を持つ者の交流の場として、自己研鑽の場として活用していただければと願っております。

平成6年より福岡市医師会理事となり、産業保健も担当させていただいております。21世紀の高齢社会を迎えるに当たって社会の健全性を保つには、地域保健としての産業保健への取組が不可欠です。これを受けて、供給側では日本医師会認定産業医制度が軌道に乗り、需要側では地域産業保健センター事業が稼働し始めました。需要と供給を如何に噛み合わせていくかに腐心しているところです。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いいたします。

大分医科大学公衆衛生医学(II)講座  
青木 一雄(専門医登録ID No. 26)

昭和51年上智大学理工学部数学科を卒業し、同大学大学院修士課程、博士課程を経て、大分医科大学に昭和56年入学、昭和62年卒業、直ちに公衆衛生医学講座(三角順一教授)に入り、三角順一教授のご指導のもと今日まで、衛生学及び公衆衛生学を勉強させて頂いております。

産業衛生関係においては、平成元年より、製造業(造船)の嘱託産業医、平成3年1月日本医師会認定産業医、平成5年5月に日本産業衛生学会の専門医制度による研修医(ID:12)、平成7年10月に日本産業衛生学会の専門医(ID:26)、平成9年6月労働衛生コンサルタント(ID:保一1810)。平成元年より今日まで同一事業場[製造業(造船)]の嘱託産業医として、粉塵(溶接ヒューム)、騒音(成形、組立)、有機溶剤(船底、タンク、船室などの塗装作業)などの有害業務に相対峙するとともに、中小事業場の労働衛生管理の難しさに悪戦苦闘している毎日です。

また、昨年の安衛法の改正で産業医の勧告権が法に明記され、我々産業医にとっては大変喜ばしいことですが、法に明記されたが故に、逆に責任が生じてくるのは必定であります。従って、我々産業医は産業界や社会情勢の急激な変化や法改正に適合するような産業医活動が求められており、それぞれの産業医が様々な変化を的確に捉えるとともに的確な対応が求められており、今まさに産業医が各事業場より試験されていると言っても過言ではありません。しかし、非常に多岐に渡る産業衛生領域を一人でカバーするには自ずから限界がありますので、今後とも日本産業衛生学会の指導医の先生方や多方面で活躍されておられます産業医の先生方のご指導、ご助言を仰ぎながら、担当事業場に最適な産業保健活動を行っていきたく思っておりますので、宜しくご指導のほどお願いいたします。

三菱化学(株) 黒崎事業所  
成松 勇人(専門医登録ID No.28)

三菱化学(株)黒崎事業所の成松と申します。

昭和63年3月に産業医科大学を卒業し、その年の4月に新入社員として当時の三菱化成工業(現 三菱化学)に就職、黒崎工場(現 黒崎事業所:北九州市)に配属となり現在に至っております。今年で10年目となり、産業医学や会社の組織・業務の流れ等についてようやくひと通りの理解ができ、なんとか業務ができるようになったばかりであります。

事業所の規模は従業員が約2,200人、関連会社を合わせると約4,500人となります。事業所には附属病院があるので、救急処置を除けば臨床には全く関与しておらず、専ら労働衛生・健康管理を行っております。

化学工場ですので、最も重要な業務は化学物質を従業員にいかにか安全に取り扱ってもらおうかということになります。そのため、化学物質の有害性の情報収集や取扱い方についての検討が重要になります。また、関連会社を含め、年2回の健診を自前で行っているため業務の時間配分としては健康診断が最も多くなっており、

まだ若輩者ですので、今後とも御指導をよろしくお願い致します。

日赤熊本健康管理センター

小柳 敦子(専門医登録ID No.33)

日本産業衛生学会専門医の試験を受けてから、2年経ちました。日常生活に特に変わりはありませんが、国内及び世界の労働安全衛生に関する動きに注目する様になりました。

1年前から、嘱託産業医として企業を訪問し、健康相談、労働衛生教育に携わっています。

また、月に数回、熊本産業保健推進センターに相談員として出かけています。まだ相談件数が少ないので、企業の健康管理担当者や保健婦さん、たまには経営者の方を対象に健康診断と事後措置、健康づくり等をテーマに研修会を実施しています。研修の資料作りのため改めて勉強をやり直していますが、単なる知識の伝達ではなくわかり易く興味をもていただける様心がけています。しかし、企業の中でその内容を実践していただくためには、まだまだ工夫が必要です。

幸いなことに、周囲に色々教えて下さる先輩、後輩の方々がおられるので、大変ありがたく思っています。今後とも、微力ながら、働く人々の健康づくりのお手伝いをしたいと思えます。

(財)西日本産業衛生会 健康管理部 部長  
日野 義之(専門医登録 ID No.35)

皆様こんにちは。現在、私は(財)西日本産業衛生会(北九州を拠点とする企業外労働衛生機関)に所属し、専門的嘱託産業医として活動しております。今回の貴重な機会に、簡単な自己紹介と現況についてのご報告をさせていただきます。

産業医科大学卒業(平成元年)と同時に、産業医実務修練を旨指して産医大卒後修練コース(産業保健研修コース(5年制))へ進みました。

2年間の内科研修の後に、NKK(日本鋼管)鶴見製作所 専属産業医などを経験。平成4年からは産業医科大学にもどり、産医大産業生態科学研究所を中心に産業保健分野での修練を深め、平成6年6月に産業保健研修コースを修了。平成6年7月から現職に就いております。

現在は、27事業場で嘱託産業医活動を展開させていただいております。今後、担当事業場での産業保健のさらなる充実に進んでいきたいと考えております。また、(財)西日本産業衛生会が嘱託産業医活動を提供させていただいている数多くの事業場(対象事業場数:358事業場、全対象労働者数:55,784人)の産業保健の充実にも、機関内医師の立場から少しでもお役に立ちたいとも考えております。

さらに、当会は産業医科大学のお膝元にあることもあり、産医大の先生方のお力をお借りしながら、他機関では展開できないようなモデル的な取り組みが現実のものとなることを夢見ながら活動して参る所存です。

よろしくご指導の程をお願い致します。

トヨタ自動車九州株式会社

田中 雅人(専門医登録ID No.39)

はじめまして。福岡県鞍手郡にありますトヨタ自動車九州株式会社で専属産業医として勤務しております。平成元年に産業医科大学医学部を卒業し、同大学産業保健研修コースにて卒後修練を行いました。

在籍中は、産業医科大学病院、日本鋼管病院、日本鋼管京浜製鉄所、産業医科大学産業生態科学研究所、同産業医実務研修センター等で研修を行い、大企業における専属産業医や中小規模事業所での嘱託産業医などいろいろな業種の産業医業務を経験しました。研修終了後、平成6年より現在の会社にて勤務する傍ら、産業生態科学研究所環境疫学教室にて研究指導を仰いでいます。

会社では、従業員約2,000名の衛生・健康管理全般に係っていますが、中でも健康診断の実施と事後措置、診療業務、適正配置に多くの時間を費やしています。エンジンを除く自動車車体の製造、塗装、部品組付けを一貫して行っているため、管理の対象となる有害業務も多く、また腰痛、上肢の筋骨格系障害の予防と早期対応、増悪予防に関する業務が中心になります。特に後者は、生産ラインで働いている作業員にとって就業に直結し、現場のニーズも高いのですが、適確で実地的な作業管理手法が十分確立されているとは言い難く、個別対応に終始しているのが現状です。産業医らしく全体的な一次予防の充実を図るべく取り組んでいきますので、九州地方会の皆様方のご指導を今後ともよろしくお願いいたします。

(社)福岡医療団 千鳥橋病院

舟越 光彦(専門医登録ID No.45)

日赤熊本健康管理センター

野波 善郎(専門医登録ID No.52)

私は平成8年に産業医科大学を離れ、当センターに勤務を開始すると同時に専門医資格を取得させていただきました。日常業務として、検診やドックの診察、検査(G I F、MDL)、胸写や心電図判定、そして数社の嘱託産業医業務などを担当しております。

当センターの“売り”は、日本でも有数の規模で事業を行っている人間ドックです。ドックには、企業や健保組合からの委託で入所される方が多数を占めます。また、検診機関として地域や事業所の検診も手広く行っておりますが、従来はそれぞれがバラバラに動いていたといっても過言ではない状況でした。嘱託産業医を始めとする産業保健業務を展開するにあたり、一般検診受診者及びドック受診者それぞれに対して若干異なるサービスや結果を提供する点を、まず可能な限り是正する必要に迫られました。そこで、結果や判定などの共通フォーマット化を進めております。しかし、項目の違いや後に行うであろう事後措置などの問題もあり、試行錯誤を繰り返していかなくてはならないようです。

ほとんど空きのスケジュールに加え、私の怠惰な性格ゆえにあまり貢献できていないのが現状ですが、少しずつ経験を積み重ねながら今後も気長に取り組もうと考えております。

産業医科大学産業生態科学研究所  
環境疫学研究室

寶珠山 務(専門医登録ID No.55)

この度の専門医試験に合格させていただき、正直なところ安堵感で一杯といったところです。試験は2日間にわたって行われ、筆記試験、口頭試験、集団討論、プレゼンテーションの各成績から合否が判定されます。もちろん、疲れなかったと言えようになりますが、充実したひとときでした。受験するといろいろなものが見えてきます。「自分を変えたい」、「自分の意外性を知りたい」etc.のご意見をお持ちの方は、ぜひどうぞ。一見(一験?)の価値はあると思います。

さて、大学では主に職域の健康診断データを用いた疫学的研究とその教育に従事しておりますが、その傍らで嘱託産業医としても7年間に渡り活動してまいりました。北九州近隣の製造業、旅客運輸業といった業種の中小規模事業場で、情熱をもって安全衛生管理の

サポートに取り組みました。ただ、当初は少々力みすぎの感があったのですが、ようやく最近になって要領を得てきたようで、現場の担当者とのやりとりもスムーズに運ぶようになりました。おそらく、専門医試験に備えて、三管理や労働衛生教育をもう一度勉強し直しているうちに、自分なりに知識体系を整理できて、肩の力が抜けてきたのではないのでしょうか。

今後は、新たなスタートラインに立つ気持ちを常に忘れずに、また専門医の名に恥じぬように、さらに努力致すつもりです。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

九州松下電器㈱福岡本社健康管理室  
梅野 孝子(専門医登録ID No. 56)

このたび、九州の専門医の紹介文を掲載したいからと、私にもお声がかかりました。大変光栄に存じます。

私は、久留米大学医学部の出身で、九大第一内科に入局し、臨床研修の後、基礎大学院を卒業いたしました。平成2年に現在の勤務先、九州松下電器(株)福岡本社に専属産業医として就職しましたが、それまで産業衛生や会社組織というものに全く縁がなかったので、当初は戸惑うことばかりでした。幸い、松下グループの本部からの強力なバックアップがあり、また、所属組織の上司が寛容な方々でしたので、これまで8年間なんとかやってこれたのだと思っています。

私のおります会社は、従業員3千人余り、平均年齢は38才です。従業員の6割以上が研究開発に携わる技術者で、その他、国内外の営業部門、創業当初からある工場、全社的な管理部門の集合体です。年々増える生活習慣病、その予備軍、メンタルヘルス不全者、海外駐在員や年間2千人を越す海外出張者の健康管理、工場従業員の高齢化、などの諸問題を抱え、悪戦苦闘しております。大変やりがいを覚えると同時に、自身の力不足を痛感する毎日ですが、学会の専門医として認めていただいたことを励みに、精進を重ねていかねばと思っています。よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

## 外国人会員の声

### 長崎での研究や生活

長崎大学医学部公衆衛生学講座 大学院生  
エドワード・S・マスワンヤ

私は1993年4月に来日し、福岡で日本語の勉強を半年間行い、その後長崎大学公衆衛生学教室の大学院生として学んでいます。これまでスタッフなどの皆さんには、単に研究面だけでなく、生活の支援全般にわたって支援・協力をしていただき感謝しています。(寒いということいろいろもらいましたが・・・でも、長崎の夏の方が暑い・・・) さて、研究の方ですが、エイズについての質問紙調査を行っています。対象は母国である東アフリカ・タンザニアと長崎の高校生や大学生で、エイズに対してどのような知識をもち、それがどう性生活の行動に反映(行動変容)されているかについてです。エイズが日常的な病気であるタンザニアと、そうではない日本の若い人が、それぞれエイズに対して、どのようなイメージをもち、態度や行動の変容につながっていくかが非常に興味があり、調査を行ってきました。ただ、日本では性生活などに関する質問が非常に難しく、高校生対象にはアンケートできていません。どこかアンケートができる場所があれば教えて下さい。

日本に来て良かったことはたくさんさんの知り合いができたことです。

長崎だけでなくいろんなまちでホームステイさせていただきました。物価も高く、外国人にとって暮らしにくい面もあります。しかし、異なった慣習や言葉の壁などさまざまなバリアーがありながらも、フレンドリーにしてくれて大変感謝しています。日本という国は、伝統を重んじながらも、何か新しいものに常に取り組みをしやすらしいと思います。最後に、長崎という地名は、世界中で知られています。しかし、それは十分とは言えません。これから長崎についてより一層知ってもらうために活動していきたいと思っています。宜しくお願いします。

## 編集後記

本年3月31日に発刊致しました創刊号に続いて、計画通り第2号をここに発刊する運びとなりました。今回は、諸般の事情により若干紙面を縮小し、コンパクトになりましたが、平成5年度日本産業衛生学会専門医制度の発足以降の登録状況と九州地方会からの合格者の自己紹介文を掲載させて頂きました。今回、本ニュース発行の事務作業の軽減を計るため一部E-mailで原稿をお寄せ頂きました。

また、九州各県の産業保健推進センターの御活躍につきましても順次御紹介致したいと思います。

今後、紙面のスタイルや内容等何でも結構ですので御提案、御意見などお寄せ頂き、より充実したものにしたいと考えておりますので、今後共よろしく御支援、御協力の程お願い申し上げます。

1997年は、昨年にもまして日本丸にとって激動の年であったようです。来年も平穏は期待できそうにありませんが、皆様の御健康と更なる御活躍をお祈り致します。(文責：三角)

## 九州地方会ニュース「産衛九州」

発行 平成9年9月30日

編集正責任者：三角 順一(大分医科大学)  
編集副責任者：馬場 快彦(福岡産業保健推進センター)  
編集委員：青木 一雄(大分医科大学)  
青山 公治(鹿児島大学)  
石竹 達也(久留米大学)  
市場 正良(佐賀医科大学)  
畝 博(福岡大学)  
大村 実(九州大学)  
川本 俊弘(産業医科大学)  
新城 正紀(琉球大学)  
永田 耕司(長崎大学)  
福光 ミチ子  
(ひさやまヘルスC&Cセンター)  
前原 正法(宮崎医科大学)  
宮北 隆志(熊本大学)

(五十音順)

〈編集事務局連絡先〉

〒879-5503 大分県大分郡挾間町医大ケ丘1-1  
大分医科大学公衆・衛生医学(II)講座  
(担当：青木、園田)  
TEL(0975)86-5742  
FAX(0975)86-5749